

「なぜ遠隔教育が広く普及しないのか」

～オンラインによる遠隔教育など教育における最新技術の活用について～

愛媛県教育委員会事務局
指導部長 長井 俊朗

1 当県における遠隔教育の取組状況

- ・ 県立高校におけるオンライン英会話
- ・ 愛媛スクールネット内のWeb会議システムの活用
- ・ 県内市町における遠隔合同授業の実践

2 なぜ遠隔教育が広く普及しないのか

現状の学校現場に導入するにあたって、理由を整理。

- (1) 教育現場における遠隔教育の活用方法や用途ごとに考慮すべき点等の整理・検討
 - ICT活用に関しては、具体的なニーズに対して、ICTの活用が最も効果的な手段であるかを整理すべき。
 - 遠隔教育には、オンラインスピーキング、遠隔合同授業、不登校児童生徒の対応への手段など様々な用途があり、用途ごとの問題点を現場においても検討しては。
- (2) 遠隔授業のリスク
 - ICT機器を使用する手法であるため、機器故障が起こると、従来方式の授業と異なり、授業が成立しなくなる。
 - ICT支援員の増員が必要。
- (3) 財政的負担
 - 機器故障や不具合が起こらないようICT環境を整備するための予算を確保することが必要。
- (4) 教員の業務負担
 - 年間を通じて計画的な準備が必要であり、事前準備に時間と労力がかかることによる教員の負担を軽減することが必要。

(5) 効果の周知

○遠隔教育により生まれる教育効果を広く周知することが必要。

(6) 遠隔教育に関する技量・経験

○離れた場所からデジタル機器を介して十分なコミュニケーションのとれる授業を行うためのスキルや経験が必要。

(7) 学校の統廃合の議論への影響

3 遠隔教育推進のために

○財政負担の軽減

○遠隔教育を実施する環境の整備

・ICT機器の整備

・ICT支援員等の人材配置

・配信側、受信側の調整（ニーズ等のマッチング、日程調整等）

○教員の遠隔教育に対する心理的負担の軽減

・遠隔教育の周知、研修会の実施

4 総括

○ これからの情報化やグローバル化が急速に進む時代を生きる子どもたちに、効果的な教育を行うための教育手段の一つとして、時間的、地理的格差を生じさせない遠隔教育を取り入れることは有益である。

○ 遠隔教育の推進にあたっては、ICT技術の進展を考慮しながら、現実の教育現場にどう活用することが効果的か、広く議論する必要がある。